<短報>

在宅で暮らす重症心身障害児(者)の 口腔衛生の現状と課題

~重症児者の口腔衛生に関する訪問事業を通して~

旭川児童院 地域療育センター

荒木 深沙妃

福田 彩夏・谷本 萌・堀 雅彦・本田 順子

・村下 志保子

キーワード

重症心身障害児(者),重症児者,口腔衛生, 歯科,訪問,小児等在宅医療連携拠点事業

1. はじめに

医療の進歩に伴い、在宅で暮らす重症心身障害児(者)は増加しており^{※1}、あとを追うようにして医療・福祉の整備が徐々に進められている。重症心身障害児(者)は福祉サービスを受けながら自宅で生活し、家族との時間が増えた一方で、全員が満足いくサービス量を受けているとは言い難く、家族は介護の負担を感じながら生活をしている^{※2}。

この度、旭川児童院 地域療育センターでは小児等在 宅医療連携拠点事業の中の一つとして、「重症児者の 口腔衛生に関する訪問事業」を開始した。今回の口腔 衛生とは、お口の健康の他に、口腔ケア・歯科受診な ど広義的な意味合いで使用している。まだ途中経過で はあるが、今の時点から読み取れる現状と課題につい て考察する。

2. A 県小児等在宅医療連携拠点事業とは

県からの委託を受けて、平成26年より開始した。 医療ニードの高い子どもが、地域で安心して療養できるよう、福祉や医療とともに連携し、地域で在宅医療を支える体制を構築することを目的とする。

事業内容

1) 会議の開催

(地域移行支援会議・短期入所情報交換会)

- 2) 研修会の実施
- 3) 患者, 家族, 関係機関を対象にした支援

3. 重症児者の口腔衛生に関する訪問事業とは

A 県小児等在宅医療連携拠点事業の一つとして、令和元年から実施している。令和元年に実施した県在住の重症心身障害児(者)の実態調査結果(『旭川荘療育・医療センター医療福祉倫理委員会』の承認を受けている)※2 をもとに当院歯科医師が考察した。複数の問題があがったうちの3つに着目した。

- 1) 歯磨きに困難を感じている家族へのアプローチの必要性
- 2) 近くの通院先の情報提供,または訪問歯科の紹介ニーズ
- 3) 現在受診をしているが「困っている」と回答したケースが多数あり、その原因分析の必要性

これらの問題を解消すべく、今回の「重症児者の口腔 衛生に関する訪問事業」を開始した。特に 1) 2) に 重点をおいて行った。

4. 対象

旭川児童院 地域療育センターが把握している A 県 内の在宅で暮らす重症心身障害児(者)(以下 重症児 者)430名を対象にはがきの郵送を行った。

5. 目的

- 1) 重症児者の健康の保持・増進
- 2) 本人・家族の困り感・負担感の軽減
- 3) 口腔衛生に関する課題の分析

6. 方法

対象の重症児者 430 名へ往復はがきを郵送し、返信があった方は研究に同意して頂いたとみなし研究を行った。内容としては、「歯に関する悩みごと」「かかりつけ歯科」について自由記述とした。また、記入した悩みに対し、問題解決を求める人には、「保健師の訪問希望する」に選択を依頼した。保健師の訪問希望者を対象に、困り感の解決に取り組んだ。(図1)

7. 対応

「保健師の訪問希望する」を選択した32名を対象に、 後日保健師が訪問し聞き取りを実施した。聞き取りを したうち、歯科医院または訪問歯科の情報提供を希望する15名には、ニーズに応じて保健師より資源の紹介を行った。また、専門的視点からの指導や情報提供が必要と思われた12名については、当院歯科と連携し、同行訪問を行った。

1) 当院歯科との訪問について

参加者: 歯科医師, 歯科衛生士, 保健師 内容:

- a) ご家族の口に関する悩みごとの確認
- b) 歯科医師により口腔内の確認
- c) 自宅での口腔ケアの様子を確認 支援者に日頃の歯磨きの様子, 自宅で使用している 口腔ケア用品を確認した。
- d) 口腔ケアの指導

本人の体勢, ブラッシングをする人の位置, 開口の促し方など, それぞれの状態や困り感に合わせた指導を行った。

e) 道具の紹介

8. 結果

1) 郵送による調査結果

(1) かかりつけ歯科の有無(図1)

430名(住所不明19名を含む)中,返信者は199名で,回収率は48.4%であった。そのうちかかりつけありと回答したのが155名(78%)。かかりつけなし(長年通院していない人も含む)は43名(22%)であった。かかりつけがある人の中で,重症児者を専門とする2か所の歯科(当院もしくはB大学病院)に通う人は103名と66%にものぼり,重症児者のほとんどは専門的な知識をもつ歯科に通っている現状にあった。民間歯科を利用している人は47名(30%),訪問歯科を利用している人は5名(3%)。重症児者を診療可能な民間歯科や訪問歯科は少ない。

(2) 困っていることについて(図2)

「歯磨きを嫌がる・口を開かない・歯磨きが難しい・ 歯ブラシをかむ・うがい・道具」を口腔ケアのこと、 「よだれ・歯石・歯並び・歯肉・生え変わり・摂食嚥 下・歯ぎしり・虫歯・口内炎・歯が溶けている」を口 腔内の状態・機能のこと、「歯科受診について」と大 きく3つに分類できる。

口腔ケアについては65名が困り感を抱えていることがわかる。歯科受診については、「医療的ケアがある、大声をあげる、バギーのまま診察できず移乗が大変、自宅から遠い、予約がとりづらい、仕事で診療時間内に通えない、コロナ流行のため控えている」などがあがった。その中でも特に多かったのが、「歯科に通いたいが行けていない」「訪問歯科を探してほしい」といった情報提供を求める声であった。

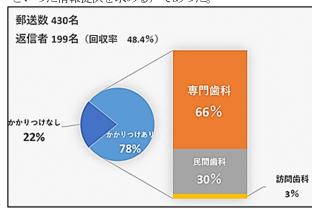


図1 返信者の内訳 かかりつけ歯科の現状

小数点以下を四捨五入としたため、合計が100%未満となる

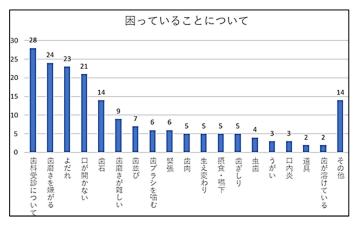


図2 返信者内訳 困っていることについて

1) 保健師の訪問希望者について

(1) 保健師より情報提供を行った結果(図4)

保健師が訪問した32名のうち、情報提供をして歯科医院または訪問歯科につながった人が16名。そのうち4名が既にかかりつけ歯科があるが、情報提供を希望され紹介に至ったケースである。理由としては、「訪問歯科を利用しているが、口腔内を少しみてフッ

素を塗るだけで終わる」「遠くて民間歯科に変わったが、もう一度当院で見てほしい」「人工呼吸器があるので、その歯科ではフッ素を塗る程度しかできないといわれた」などの声があり、希望に合わせて紹介した。かかりつけ歯科に至らなかった2名は、新型コロナウイルス流行のため保健師が未訪問の人である。

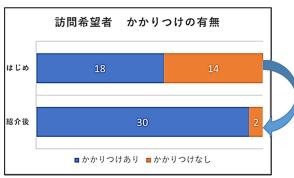


図3情報提供後のかかりつけ歯科の変化

(2) ご家族からの声(表1)(表2)

当院歯科と訪問を行った結果,「専門的な歯科に訪問で診てもらえると嬉しい」などの意見があった。一方で,事業全体を通してでは通院もしくは訪問との併用を求める声もみられた。

a) 通院希望者

- ・何かあった時でもすぐ対応できるように, 設備が整っている所で診療を受けたい
- ・治療中、動いて危ないので体制を保持したい
- ・診療回数を減らしたいので、手早く済ませたい

b) 併用希望者

- ・通えるうちは通院して、難しくなったら訪問に切り 替えたいので、どちらもあるところを利用したい
- ・定期健診は訪問を利用して、治療が必要となったら 受診したい
- ・通院している歯科を手放したくないが、遠方で通う のが大変なので、定期的な歯石やブラッシングは訪問 を利用し、年に1回は専門的な歯科で見てほしい

9. 考察

1) 事業を通しての課題

(1) 家族の歯科医院の情報不足

「誰に通院先の相談をすればいいかわからない」との表1 訪問を実施しての結果

声が多かった。相談支援専門員がついている場合には、 担当に相談するケースが多い。しかし、相談先がない 人は、重症児者の受け入れを公表している民間歯科や 訪問歯科は少なく、家族が自力で調べるのは困難だと 思われる。仲介してくれる場所の必要性が高い。

(2) 重症児者の受け入れ可能な歯科医院の拡充

県内において、重症児者に対応できる歯科医院は少なく、訪問歯科になるとさらに少ない。へき地においてはさらに限定される。そのため、へき地に在住する重症児者は、片道2時間をかけて市内の専門的な歯科に受診する場合も少なくない。以上より、障害者歯科対応の歯科医院の拡充の必要性があるといえる。

(3) 一次医療機関と二次医療機関の連携・体制整備表1より、「予防では民間歯科・訪問歯科など地元の歯科を利用し、治療となれば専門的な歯科を利用したい」との声が複数あった。家族の中には、専門的な歯科を手放したくないが、利便性(遠方で通院に時間がかかる)のため、やむを得ず民間歯科に変更した人もいた。予防を行う一次医療機関と治療を行う二次医療機関との連携の必要性、またその体制整備が必要である。

10. おわりに

重症児者を支える家族の日常は、日々のケアはもちろん、送迎や通院など忙しい現状である。昔と比べて、 医療や福祉サービスは整備されたが、重症児者が在宅で暮らすには本人・家族の負担が大きいのは変わらない。本人の特性や家族も含めたライフスタイルに合わせて受診の形が色々選択できると、本人やそれを支える家族の健康や生活の質も向上するのではと感じる。

参考文献

- 1)社会福祉法人 旭川荘 旭川荘療育・医療センター, 令和2年3月31日, 地域で暮らす,
- 2)社会福祉法人 旭川荘 旭川荘療育・医療センター,, 令和2年3月31日,令和元年度 岡山県小児等在宅医 療連携拠点事業 報告書,岡山県在住の重症心身障害 児(者)の実態調査結果

表1 当院歯科と訪問しての結果「口腔ケア・通院について」

悩み		結果(家族の感想)	
	自傷行為(髪を抜く、頭をたた	・リラックスしていた	
口腔ケアにつ	くなど)	・大声・自傷行為が少なかった	
いて	いやがる	・拒否が少なかった	
	開口しない	・口をあけた ・ブラッシングしやすくなった	
通院について	- 外出しないので人見知り・場 ・ リラックスしていた		
	発作が起きやすい	・自宅なのですぐ対応できる。	
	その他	・出かける準備をしなくていい	
	(人工呼吸器があるなど、通院	(医療的ケアの必要物品など)	
	の負担が大きい)など	・移乗の必要がない	
		・外出しないので、感染の心配が軽減した	
		・時間にゆとりがあるので、質問しやすい	
	県北・県境のため遠い	・来てくれると通院の負担が軽減する	
長らく通院で	口の状態が知りたい(虫歯の有		
きていなかっ	無・歯茎の状態・歯ぎしりに	・口腔内の状態がわかってよかった	
た	よって削れた歯の状態など)		

表2 当院歯科と訪問しての結果「歯磨き指導・道具の紹介をして」

母の希望・悩み		指導内容	結果
してほしい		・自宅での歯磨きの体勢・支援者の磨く位置	・頭側から磨くことで、口がよく 見える ・自宅での歯磨きの仕方がわかっ た
	歯茎のはれがある うがいができない人の歯磨 き後の処理方法	・歯ブラシの当て方、力の強さ ・ガーゼで拭いとる・吸引する ・歯磨き粉を飲み込んでもいいものと 変える	・本人に合った磨き方を確認して もらってよかった
	スポンジやガーゼなど道具 の使い方を教えてほしい	・スポンジ・ガーゼなどの使い方の説 明使用頻度・使用する状況など伝える	・道具の使い方を初めて知った 使ってみようと思う
	開口しない 口腔内が見えない	・歯磨きの前に類や口周りのマッサージをする(特に経口摂取でない人は、口に物を入れるのに抵抗感がある人が多い) ・指で頬の肉を排除して口腔内を広げて磨く	・口が開いた・口腔内がよく見えて、磨きやすくなった
	歯ブラシをかむ	・歯茎沿って指を入れる・歯ブラシの柄に専用のゴムをつけて噛ませて隙間を作る	・噛まれる不安が軽減した
道具の紹介をしてほしい	使用している歯ブラシが本 人に合っているのか確認し てほしい	・歯ブラシの硬さ・毛の長さなどを確認 ・歯ブラシがあっていない場合には紹介	・本人に合った歯ブラシかどうか わからないまま使用していたの で、確認してもらえてよかった
	歯並びが悪く磨きにくい	・磨きにくいところは先の細い歯ブラシを使用する。2本使い分けるのもよい ・柄が曲がる歯ブラシを紹介	・歯ブラシの使い分けをしてみようと思う・購入して使ってみたい

要約

地域療育センターでは小児等在宅医療連携拠点事業の中の一つとして、「重症児者の口腔衛生に関する訪問事業」を開始した。A 県在住の重症心身障害児・者の口腔衛生の現状と課題を把握することを目的として、郵送による調査を行った。内容としては、「歯に関する困りごと」「かかりつけ歯科の有無」「保健師の訪問希望」を回答してもらい、希望者には保健師が訪問し聞き取りを行い、問題解決に取り組んだ。聞き取りの中で専門的な情報提供・指導が必要と思われた人には、後日当院の歯科医師・歯科衛生士とともに訪問し、問題解決・不安解消に取り組んだ。まだ途中経過ではあるが、今の時点から読み取れる現状と課題について考察する。